

人口総数	73,557	世帯数	21,478
男	35,418	面積	16.07km ²
女	38,139		

市政電話サービス
市へのご意見・ご要望は休日など執務時間外でしたら
意見・要望承り電話
→ 4444
声の「広報あしや」シヤクシヨ
③1 4894
市政ニュースを24時間中お聞きいただけます

特集

上水道

「水」は、一日とても私たちの生活に欠くことのできないものです。なにげなく飲むコップいっぱいの水がご家庭に届けられるまでには、たくさんの人たちの手を通じ複雑な処理が行なわれます。6月1日からは「全国水道週間」が実施されました。この機会に芦屋の水道について、みなさんのご理解とご協力をいただくため特集しました。今後いっそう事業の円滑な運営を行ない、安全で清浄な水の確保に努力していきます。

ご承知のとおり、芦屋市は六甲山系を背後にひかえ、地形が急であるため、良質の水に恵まれず早くから、上水道施設の研究がなされましたが、実現せず、つばら簡易水道や井戸水に頼っていました。

水の需要 施設の建設 に応じた

市では、市街地の区画整理、山ろく地帯の開発に伴う水の需要増に対処するため、昭和四十二年度から第一期最大計画配水量三万八千立方メートルの給水を確保するため、

昭和の初期に入ってから、上水道施設の機運が高まり、昭和十年、事業認可を経て、十三年四月から給水が開始されました。現在は、給水人口、七万一千人、水道普及率、九八・六パーセントに達しています。

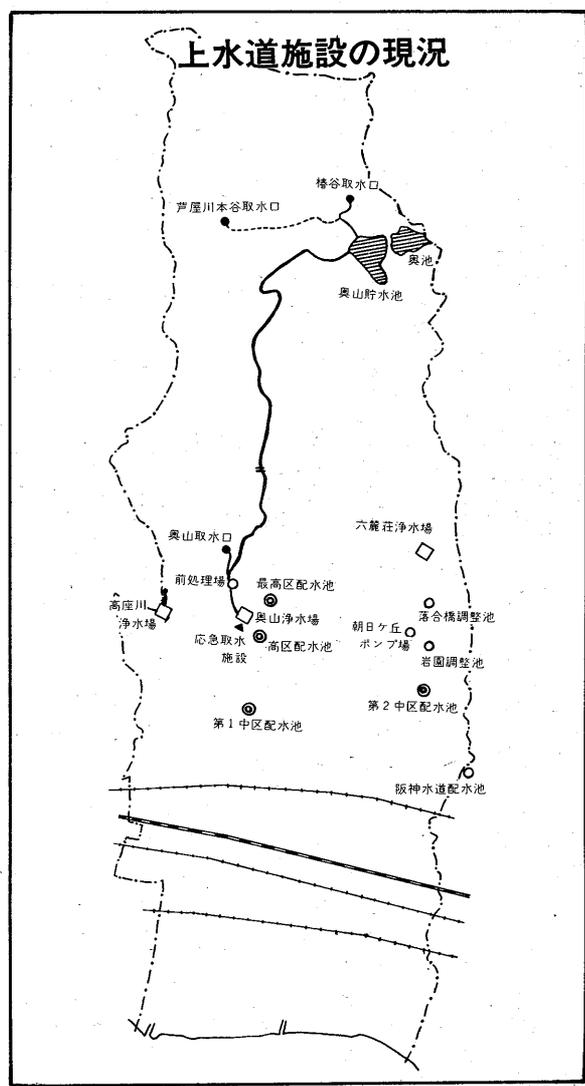
施設の近代化 管理の

本市は、地形、河川の関係上、各施設が点在しているため、第四期拡張事業で奥山浄水場で集中管理ができるよう計画設備を設置し、各施設におけるデータ、たとえば、流量や水の高さをテレメータ方式で管理していくといった近代化をはかっています。



豊かな生活は水道から

奥山貯水池 (手前は奥池)

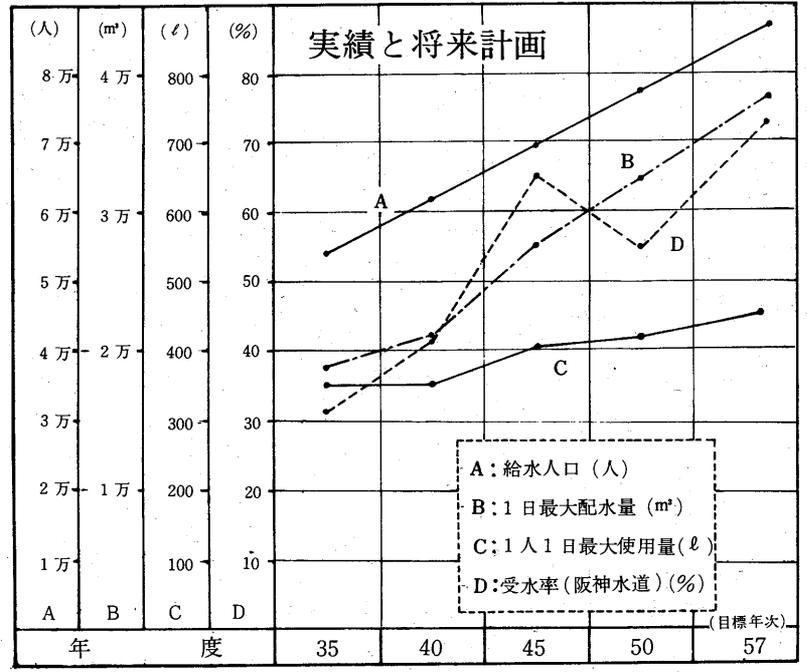


これからの拡張事業

「水道事業とは拡張のたまたみである」といわれています。市では、これまで可能な限り、施設の増設や改良を重ねてきました。都市化の進展、生活様式の変化に伴い、水の需要量が年々ふ

目下の計画としては、山陽新幹線六甲トンネルからの湧水三千立方メートルの取水についてすでに了解を得ていますが、関連した施設の新設など大きな工事が必要と

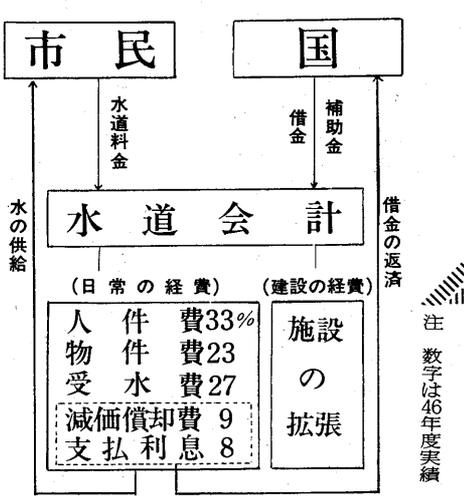
「水」はた いせつに使用 しましょう



芦屋市の水道の 三分の二をまかなう 阪神水道企業団

昔から水に恵まれぬ神戸、芦屋、西宮、尼崎の各市の水道では、人口が増加するにつれ、自己の水源だけではまかなえず、水不足に悩まされてきました。このため、昭和十七年に四市が構成する阪神水道企業団をつくり、不足する水を淀川から取り入れ、きれいな水にして四市に卸売りするようにしました。これは、各市の水道が別々に大きなお金を投じて淀川から水を

水道財政のしくみ



水道事業に使う費用はすべて水道料金でまかなうよう法律で定められています。これは、地下鉄やバスと同じように、水道を利用する度合いに応じて経費を負担するのが合理的であるという考えかたからです。しかし、最近の都市人口が増加している情勢の下では、一水道会計だけの負担で設備投資をすることは困難であり、また不合理です。そのため国等に対し、相当額の補助金を要請しています。一般に、水道事業に使うお金は、次の二つに分

